

---

# 四つ葉 高校1年生編

夜築

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

四つ葉 高校1年生編

### 【Nコード】

N5600P

### 【作者名】

夜築

### 【あらすじ】

高校生生活で四人組の男女の恋をしはじめる

## 第一章始まりの時 前編

登場人物

松田 飛鳥 まつだあすか

芳田 由美 よ

しだゆみ

千田 紗綾 せんださやか

斉藤 舞 さい

とうまい

恵山 綾 とくやまあや

清寄 沙紀

しんざきさき

富田 正棋 とみだまさあき

石原 新士 いし

はらしんじ

内村 周一 うちむらしゅういち

松本 歩 まつもとあゆむ

笹木 健裕 ささきけんすけ

田邑 純一 たむらじゅ

んいち

中島 仁 なかじまじん

吉川 鉄勒 よしか

わてつるお

古隈 洋子 ふぐまよおこ

とわる学校での出会いの物語である。

四月十日 (とうとうこの日が来たんだな。) 思いつつ新しい通学路を歩いていたら、後ろからドスンと押されて、後ろを振り返ってみたら

「おはよう！」と挨拶されたので「おはよう」と言い返したら、同じ中学校で同じクラスになった、松本 歩だった。

自己紹介が遅れて、私の名前は内村 周一この学校でいろんな事が、始まりそう……。入学式 校庭で、新一年生のクラス分けの紙が張ってあったので、私は、どのクラスになったか見てい

たら、歩が「週一はこのクラスになったの？」を聞いてきたので、「・・・一年A組」と、言って「歩は？」と聞いてみたら、「一年A組」どうやら一緒のクラスらしいので、一緒に行って自分たちの席に座って先生が来るのを待っていた。まわりを覗いていたら、(このクラスは男子と女子が一緒のクラスなんだ。)と、思いつつ席で座っていたときに、いきなりドアが開いて、「皆、席について」と生徒に言って、入ってきた人が「今日から、このクラスの、担任になりました古隈 洋子と言います。一年間頑張ってくださいよう。」と挨拶して、しばらく間があってしたら「入学式がありますので、廊下に二列に並んで」と、先生が言って皆がぞろぞろと、廊下に並んで入学式の会場へ行ったのである。

入学式が終わって、教室に戻って担任が、「十分間の休憩をとりますので、トイレ以外は、教室から出ないように。」と、言って担任は職員室の方に行った。先生が見えなくなつてから、一分経つてから歩が来て「他のクラスは、女子がいるクラスはこと、一年E組しかないよ。」と言つてもそれがどうした。と思つたときに、男子が二人来てその一人が、「なに喋っているの？」と聞いてきて歩が「この先どうゆうふうになるか話していたの、あなたたちの名前は？」と聞いたら「富田 正棋と田邑 純一よろしくね。」と紹介するので、こちらにも名前を言つて四人で、話していたら、先生が来て「皆、席について今から自己紹介を始めるから」と言つて一人ずつやり始めて二十分掛かつて全員の、自己紹介が終わつた後に、「来週の月曜日から、授業がありますので、時間割表と一学期の予定表を、配りますので、無くさないようにしてください。」配り始めて五分掛かつて配り終えて、「級長と副級長を決めますので、立候補をする人は、いませんか？」と言つて二分経つて、一人の男子が級長に手を上げて、しばらくして、女子が副級長に手を上げて名前は、「級長が石原 新土さん 副級長が斉藤 舞さんで良いですか」と生徒に聞いたら、他の生徒たちから反対もなく決まつた。そしたら、先生が「学級員が、決まりましたので、早いですが号令

をかけて、帰りましょう。」と言って、級長に号令をかけさしてほかの生徒は、挨拶をしたらすぐに帰ってしまう人が、いれば少し学校に残って、生徒同士喋っていてその中に、週一・歩・正棋・純一と他に、女子が二人ほどいて、その子達が四人のところに近づいて僕たちが喋っているときに、話に入ってきて「アドレスを教えてください」と来たので、とりあえず教えたときに、「名前は？」と聞いたら、「私は、斉藤 舞こちらは、松田 飛鳥 よろしくね！」と言って仲間に入ってきた子だ。

十五分ぐらいは、喋っていて歩と週一は先に、帰ることを仲間に行つて、先に帰っていった。帰りがけの途中、来週の登校に関するこゝとで、週一から「来週から登校するとき一緒に行かないか？」と提案されたので、歩は「別に良いけど、どこに集合にする？」すぐに、「あそこの公園の、入り口で、いいでしょ。」すぐに決まったので、公園の入り口で別れた。

学校が終わつて、家に着いたのが午後二時をまわっていたので、週一は、交換したアドレスを携帯に、登録していたら……

土曜日の午前九時をまわっていた、起きてみたらどうやら、登録している最中に、寝てしまいそのままの状態であつた。携帯の画面を見たら、メールが一通も着ていなくて（そりゃあ、昨日アドレスを交換したばかりだし、その内に来るだろうし。）と週一は考えて来週の月曜日の時間割をそろえていった。そして、そのまま時間が過ぎていった。

月曜日の朝、何気なく起きたら、（今、何時なのだ）と心の中で思い時計を見たら、午前 四時を指す所だつた。（寝られないからそのまま起きてよう。）と思つた瞬間に、携帯が鳴って、見たら歩からメールが着た、「朝早くに、メールしてごめん。急に寝られなくなつてね。何しているか送ってみたんだ。」と着て読んですぐに「別にいいけど、こちら寝られなくてね。」とそのまま一時間位メールをして周一の方のメールで「公園に、七時四十五分に集合でいいか？」と送って、少し経ってから「いいよ」と着たので、それ

でメールのやり取りが、終わって時間を見たら五時四十五分で、そのまま起きて、テレビをつけて、F F B局のモーニング+のニュース(この番組は株価・為替・天気・交通情報の専門チャンネルである。)を見ていたら(アナウンサー:今日の天気は、・晴・曇のち雨・・・・です。)を見ていたら、折り畳みの傘の準備をしていたら、雨が降り始めて、普通の傘に変えるのが面倒などでそのままにした。ここは吉原市であって、生産・販売や情報・物流の拠点である。

そして、待ち合せの時間が近いから、家を出て公園の入り口に行ったら、歩のほかに舞さんがいて、歩に聞いてみたら「公園で待っていたら、舞さんに偶然会って一緒に行くかいと、聞いたなら「行く」と言って二人で待っていたの。」と言って教室まで、一緒に行くことになった。学校に着いて、朝のSTまで時間があるので、その間は三人で最初の授業の事や、今後どんな学校生活を送るか話していたら、他のクラスの人が、「何の話をしているの」と聞いてきたので、「今後の学校生活の話」と言って、週一が「あなたは、誰ですか?」と聞いたら「一Bの笹木 健裕と同じく吉川 鉄勒よろしく」と紹介されたので、こちらも自己紹介をして、そしたら、一Bの二人は教室に帰っていて、入れ替わりに、正棋と純一が来て、「先の人は?」と聞かれたので、先ほどのことを話して、二人とも理解をして、五人で、先ほどの話の続きを話した。十分ほど経ったころ、先生が来て生徒を座らして、号令をかけたあとにSTを、始めて十分で終わって、一時間目の授業の準備をして、大人しく席に座って待っていた。

授業の開始を知らせるチャイムが鳴って、数分経ってから教科担任の先生が来て、級長が号令をかけて、その後に、先生が出席をとって確認した後に、先生の自己紹介が十五分ぐらい話してから、授業に入った。・・・授業の終わりのチャイムが鳴って、先生が級長に号令をかけさして、放課になった。週一・歩・正棋・純一・飛鳥が、教卓の周りに集まって、休みの間や中学校の時の話でると、

純一が「放課や放課後に、集まって話し合おうよ。」と言ってそこに、舞が入ってきて「何曜日にするか決めとかない？放課後は、予定などではいれないときが、あるから。」と言ったら「そうしよう」と決まった。

舞が「こんな感じでいいかしら。」と提案されたので見たら月、火、木、金が放課後で水が放課と放課後で、舞が「集まるときは、昼休みで集まるの」それで、納得したようだ。残りの3時間授業は、最初の時間にやった授業と一緒に最初に先生の自己紹介が続いた。

やっと、授業が終わって給食の時間になって、そうしたら先生が、「廊下に並んで、食堂に行くから」言って、廊下に並んで「女子が先頭で、男子はその後ろに並んで、」と聞こえたので、そのとうりに並んで、歩・純一・正棋・純一が、固まって並んで食堂に行った。食堂に行った後の、昼放課は歩と週一と飛鳥で、教卓の周りに集まって何を話すかを決めていると、突然「よくこの三人は、集まって話してるよね。」と健介が話してきて、鉄勒が「何の集まり」と聞いたら、また後ろから「会合」と副級長が言った。

メンバー表      会長 内村 周一      副会長 松本 歩

斉藤 舞      松田 飛鳥      富田 正棋      田邑 純一      千田

紗綾

鉄勒が、「あんたらは、芋ずる方式でいろんな人が来るな！」と言ったら健介が、「万屋って何？」と言ってそれを聞いた人は、膝がガクンときて舞が、それを説明するだけで、昼放課が大半なくなってしまった。「なにやってるの？」千田 が聞いてきたんで、舞が「特定の話題とかで、話してるの。」と言って、「参加する」と言ってから、先ほどの話に戻して、歩が「会合のメンバー表を、これで、作っただけいいかな。」と聞いたら、純一からなんであんたらが、「会長と副会長に入ってるの？」と聞かれたとき、舞が「この話し合いは、歩と週一が最初にやり始めたからよ。」と言って、純一も納得して、他の人からも反対が、なく、その場はやり過ぎした。そして予鈴のチャイムが、鳴って、他の子が教室に戻って来た

ので、

万屋のメンバーは、自分の席に戻っていき次の授業の準備をしていた。

五時間目は普通に授業をやつて、六時間目は特活の時間で、担任が自由に使える時間で、担任がこんな提案を出した「グループを作り、その中でこれからの行事に、参加していつてください。」と言つて生徒が「グループ何人ですか」と聞いたなら「七・八人ぐらいで」といった後に、グループを作り始めた。「決まったら紙に書いて、先生に提出してください。」言つて、グループ決めが始まった。万屋のメンバーが、週一の周りに集まつてきて「これでいくの？」と正棋が他の人に聞いて、反対が無かつたのでそのまま紙に書いた。そのグループで、会合を繰り返していった。

そして、グループが決まつて五月の中旬頃の月曜日、担任が「明日からテスト週間に入るんで各自で勉強をしてくださいね。」と言つて、次の放課に万屋のメンバーが集まつて「勉強が苦手の人もいるから、学校に残つて勉強をしますか？」会長の呼びかけに、全員が納得したようで、舞が「こんな感じでいいかしら？」と表を他の人に見せたら（月、火、木、金は居残りで水は自習）「水曜日だけは、各自で勉強をして、それ以外の日は学校に残つて勉強をしましょう。」と舞が、言つてそれ以外の人は会長のほうに向いてて、「どうしたの？」会長が聞いてきて、副会長が「あなたが決定権を持っていますから。」と補足したら、納得して修正も無くそのまま決行することになった。そして、週一が「担任に居残りをしてもいいですか？」と聞いたなら「五時までは、教室を使つてもいいよ。五時になつたら帰りなさいよ。」と言つて、職員室に戻つていった。

そして、勉強会が始まった。「わからない教科からはじめましょう」と舞が言つて、純一・歩が、舞に、正棋が飛鳥に、紗綾が週一に教えてもらっている。しばらくやっていると、突然綾が「何しているの？」と聞いてきて歩が「勉強会をしているの」と言つたら、「なら私も参加してもいいかしら？」と聞いてきたから、舞が「い



いよ」と言つて、「純一とやってくれるかな？」「いいけど」と返してきたので、勉強会が始まつていった。

しばらくすると、「お前たち、そろそろ帰りなさい。」と担任の声が聞こえたので、時間を見たら五時前だったので、勉強会を切り上げて片付けを始めて週一が「歩、一緒に帰ろうぜ」と言つたので「わかつた」と言い返して片づけをしていた。全員が、片付け終わったのを見て、会長が「お疲れ様でした。明日も同じ時間から始めますので、よろしく願います。では今日はこれで終わりです。ご苦労様でした。」一同「ご苦労様でした。」「解散」と言つて帰り始めたのである。

学校を出た週一と歩が「テストは大丈夫かな？」と週一がたずねると、歩が「何の為の勉強会なの！ 大丈夫だつて」週一に言い返して「確かに 大丈夫だね」と話していると公園前に着いていて歩が「明日、いつもどおりにここ集合ね」「わかつた」週一が言い返して、その日はわかれた。翌朝、いつもどおりに準備をしてから、公園前に行ったら歩と舞が話していたので、後ろに回つて隠れて聞いてみた。舞「・・・周一君とはどんな関係なの？」歩「週一とは、同じ学校のクラス名とだね。」舞「この紙に、書いてあるのが、私のだから。」歩「わかつた。後ろにいるのは、分かつているから出でおいで。」後ろを見みて「ばれてた」と週一が言つたら「ばれてる・何しているの」と同時に言われて、「そうか。舞さんがいるなんて。」舞が「私の家は公園の前だから、家の中から見たら歩がいたから出てきたのよ。」と言つて週一は納得した。三人で、学校に向かつて行つた。

午前中の授業が終わつて、給食が終わつた昼放課に週一の周りに万屋のメンバーと綾が集まつて中間試験に関することで、話していて「高校に入つて、初めての試験だけど皆さんは大丈夫なの？」と歩が聞いてみたら、紗綾と舞「大丈夫！ちゃんと勉強をしているから」それ以外のメンバーは、「苦手の教科が・・・」と言つて女子陣が口を揃えて「教えてあげるから、勉強をしよ」言つて、二人ずつに

なつて教え合うことになった。綾が「周一と飛鳥、歩と舞、正棋と紗綾、純一と綾でいいかな？」と他のメンバーに言つてきてしばらくして「誰も反対する人がいなかったので明日から勉強をしていきましょ。」言い終わつた直後にチャイムがなつてすぐに周一以外のメンバーが、自分の席に座つて次の授業の準備をしていた。

午後の授業が終了しさらに、担任の話が終わつて、生徒が自宅へ帰るなり部活をしてる最中に万屋メンバーと綾が周一の周りに集まつてきた。会長が「前に決めた二人組で勉強を始めようか。」言つて始まつた。三十分経つた頃に担任が現れて「今から、職員会議とこの教室でミーティングがあるから帰りなさい。」言われたので、荷物をまとめて会長が「明日も同じなので頑張つていきましょう。」

それでは解散。「廊下で周一、歩、舞、飛鳥が集まつて歸つている最中学校の近くの交差点で、飛鳥が「周一くん、ちよつといいかな？」呼んで周一が「いいよ。歩、舞さんまた明日」と別れていつた。

午後五時頃、歩と舞がいつもの公園について「歩、家に歸つてもしつかりと勉強をしてね。」「うん、わかつた。ちよつと聞いていいかな」舞が「なに？」「最初に会つたとき名前が」歩」と聞いて女の子と勘違いをした？「と聞いたら舞から「そんなことはないよ。かわいい名前だし勘違いされたつて気にしなくてもいいと思うよ。」「そうだね。ありがとう聞いてくれてまた明日。」「明日ね。」別れていつた同時刻 周一と飛鳥が彼女の家近くの公園で、「どうしたの行きなり誘つて…」彼女の口から思つてみない言葉が飛び出してきた、「わ わたしとつ つきあつて下さい。」「いいですよ。これがアドレスだよ。」お互いの顔が紅くなり、しばらくの間沈黙したあと彼女の方から、「しばらく黙つてようね。」「そうだね。また明日」と別れていつた。こうして最初の葉が開いていつた。

翌日、早めに登校をした三人は、自分達の椅子を周一の席へ持つて来て、テスト勉強をやり始めた。舞が「テストが来週の月曜日だよ。勉強を頑張つていこうね。」しばらくすると、クラスメイトが

多くなってきたので勉強を切り上げて、歩が「昼放課で」言ってから椅子を戻しに行った。担任がいきなり来て、「自分の席に戻って静かに待機して、級長と副級長頼みましたよ。」急いで教室から去っていった。すると、担任が急いで来て、「本当に申しあげありません。明後日から中間試験が始まります。日程変更を伝えるのを忘れていました。」生徒から悲鳴のような声がでて、隣のクラスの担任が「どうしたんですか!」と急いできて「大丈夫なので」ハプニング的なSTが終わって、授業が始まってノート検査をしての繰り返しで、あつとゆうまの昼休みになってメンバーが周一の周りに集まって綾が「今日、明日は各自で勉強をしましょうか」言ったとき、みんなが賛成をして、そのまま解散となった。時間は飛んで帰りの時、歩と舞 周一と飛鳥の二組でいつもの処で分かれて帰って行った。歩と舞は「あの二人付き合ってるのかな?」舞に聞いたなら「何でそう思ったのかな」「イヤーあのふいんきを見たらそうかな」とおもってね。」「そうゆうわりにはうちらだって変わらないと思うよ。」「舞がいつて、「そうだな。黙ってた方が安全だな」その頃周一と飛鳥は「あの二人付き合ってるのかな?」飛鳥に聞いたなら「何でそう思ったの?」

「うんーあのふいんきを見たらそうかなとおもってね。」「そうゆうわりにはうちらだって変わらないと思うよ。」「飛鳥がいつて、「そうだな。黙ってた方が安全だな」と同じ事を、考えていた。この事はしばらく先で知ることになる。

いつもの待ち合わせより早い時間に、歩と舞が「歩、明日から試験だね。対策をしっかりとしないと」「そうだね、しっかりとね。そういえば、周一は…」「私たちが来るのが、早い」その時「何か呼んだか」突然後ろから、「なんか言ったか、あんたらこそなにやってるんだ。」「声をした方に向いたら周一がいて、「何で、こんな時間にいるの?」歩が聞いたら「学校に早く行ってテスト勉強をするからね。」「舞が「そろそろ学校に行こうか。」「そうだね。行きますか」と歩が言つて、3人が学校に向かつていく途中で「おはよー、みんな考えてることが一緒だね。」「声が聞こえた方に振り向くと、飛鳥がいて歩が「先も同じ光景があったような気がするんだが」飛鳥が「それがどうしたの、気にせずに学校に行こうよ。」「言つて学校に向かった。

教室に着いたときに、周一が「各自でテスト勉強をしようか。」「と言つた後に無言で、勉強をやり始めた。テストは1日三時間で四時間目は翌日のテスト勉強をするためになっている。これが三日間続くのが明日から始まるのが中間試験となっている。

いつもどおりに、授業を受けて昼放課になったときに、周一の周りに万屋メンバーが集まつて正棋が「テストあけの万屋の集まりを終わり次第に決めないかね。」「会長が「確かにそうだね。でも、今はテストが重要だから終わってから決めような。」「綾が「そう言えば周一、飛鳥、歩、舞は朝早くに学校に来て何してるの?」四人が目線をあわせてから、飛鳥が「各自でテスト勉強してるの」「そうなんだ。チョット気になって聞いてみただけなんだ。」「ならいいんだけど。」「会長が「そろそろチャイムがなるから解散で、今度の集まりはテストの最終日に集まるのでいいですね。」「確認をとって誰も反対がなかったので「解散。」「午後の授業を受けて、帰りのS

Ｔの時先生が「明日、くれぐれも休まないようにと、テスト勉強もすっかりと話は以上で」そのまま挨拶をして解散をした。歩の隣に舞が来て「一緒に帰ろうか」「そうだね。」学校を出た頃、周一の隣には飛鳥がいて「どうしたの?」周一は「なんでもないよ。一緒に帰ろうか。」「そうだね。」歩達が出てから、数十分経った時に学校を出て、いつもの公園の所で周一が「明日からテストだけど、どんな感じ」「どんな感じと言われてもね。テストをしっかりとるだけだよ。」「そうなんだ。コツチは、ものすごく心配だよ。」「リラックスしないと出来なくなるよ。」「しばらく、話してから解散をすることになる。」

その頃 歩と舞は、舞の家の中で明日の勉強をしている。歩が「英語と数学のこのところを教えて」舞が「わかった。それと、私ね。世界史と理科を教えて。」「わかったよ。この方がわかりやすいね。」「そうだね。テストの時は教え合いをしようね。約束をして教え合いをしばらく続く。」

テスト当日

歩 周一 舞は、いつもの時間より早くに出て、いつもの処で飛鳥と合流して、学校に着くまで一言もしゃべらずに歩いて、着いたときに飛鳥が「みんな気が立ってるね。」舞が「確かに気が立ってるね。飛鳥ちゃんもテスト勉強をしなよ。」「うん、勉強はするよ。」と言った後は、朝のＳＴが始まるまで、クラス全体が勉強をしているので担任が驚いて「始めます。」のかけごいで、クラス全体が逆に驚いて始まった。時間が過ぎて初日のテストが終了をして、勉強会終わって帰りのＳＴが終了した後は、周一と飛鳥は途中までは、一緒にかえって途中で分かれて行った。

歩と舞は、舞の家で教え合いをしていた。テスト中は、喋らずのままで最終日まで繰り返し返した。

最終日のテスト終了後の帰りのＳＴ後、万屋メンバーが教卓の周りに集まって、会長が「いつにするかは、決まり次第連絡をしますの

でお願いします。解散で」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5600p/>

---

四つ葉 高校1年生編

2010年12月18日15時09分発行